



JCLIEE

2014年 7月号



一般社団法人尾道青年会議所
http://www.ojc.or.jp/
〒722-0035
尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL : 0848-20-1110
FAX : 0848-20-1112
E-mail: ojc@urban.ne.jp
Facebook:
http://www.facebook.com/isojcnow



6月17日（火）、尾道国際ホテルにて、6月例会を開催致しました。「まちづくりは自分ゴト」と題して、気仙沼商工会議所会頭の菅原昭彦先生をご講師にお招きして、「海と生きる」ということを過去の津波も含めて考へ、ハードではなく、自分たちの精神性や伝統・文化を大切にすることを過去の津波も含めて考へました。中でも、「海と生きる」といふことを過去の津波も含めて考へました。そして、震災を通してのまちづくりの視点を学びました。そして、震災を通しての精神性や伝統・文化を大切にすることを過去の津波も含めて考へました。そして、震災を通しての精神性や伝統・文化を大切にすることを過去の津波も含めて考へました。

その後、菅原会頭、尾道市長の平谷裕司会の三者鼎談が開かれました。活発な意見が交わされ、有意義な場となりました。ご設営下さいました青山委員長が率いる輝くまちづくり委員会のみなさま、尾道のこれからを考える貴重な機会をありがとうございました。

（記事…中司昌克）



さくらコレクション2014のパネル展示が5月21日～6月2日フジグラン、6月9日～19日しまなみ交流館、20日～27日新尾道駅の三ヵ所において行われました。みなと祭りでの子どもたちの晴れ姿を、尾道市内外を問わず広く広報活動してきました。通りすがりにチラッと見る方、ジッと見ていかかる方、見方は人それぞれですが、子どもたちの柔らかな笑顔は多くの人の心に安らぎを与え、足を引き止めたことでしょう。パネル展示期間は終了しましたが、市内循環する市バスの一台が年内はさくらコレクション2014の看板で運行しています。ぜひ探してみてください。

（記事…武田大俊）



さくらコレクション展

6月例会



6月17日（火）、尾道国際ホテルにて、6月例会を開催致しました。「まちづくりは自分ゴト」と題して、気仙沼商工会議所会頭の菅原昭彦先生をご講師にお招きして、「海と生きる」ということを過去の津波も含めて考へました。中でも、「海と生きる」といふことを過去の津波も含めて考へました。そして、震災を通しての精神性や伝統・文化を大切にすることを過去の津波も含めて考へました。そして、震災を通しての精神性や伝統・文化を大切にすることを過去の津波も含めて考へました。

その後、菅原会頭、尾道市長の平谷裕司会の三者鼎談が開かれました。活発な意見が交わされ、有意義な場となりました。ご設営下さいました青山委員長が率いる輝くまちづくり委員会のみなさま、尾道のこれからを考える貴重な機会をありがとうございました。

輝き溢れる教育推進委員会の事業PR!

みんな「小林和作画伯」になろう展

今年、尾道市名誉市民である小林和作画伯が亡くなられて40年を迎えられます。

そこで「みんな小林和作画伯になろう展」と題して、尾道市内の小学生を対象に絵画コンクールを開催致します。募集テーマは「私のふるさと・おのみち」と称して尾道の風景、イベント、好きな場所、好きな人物など自由な発想で描いていただきます。今回の絵画コンクールを通して、親子で尾道市の文化資源でもある芸術に触れてもらい、子どもの心の成長、芸術に興味を持つきっかけの一助にしていただき、より一層の郷土愛を育んで頂く事を目的としております。そして、事業の一環といたしまして、8月2日（土）、3日（日）には、千光寺にて親子写生会を開催いたします。尾道美術協会会長の佐藤圭史先生、一水会会員の村上選先生を講師としてお招きしてご指導いただきます。また、11月2日（日）には入賞者の20名を対象に西國寺にて表彰式を行います。その際には入賞作品を西國寺に展示し、11月4日（火）～11月18日（火）の期間には市役所ロビーに展示いたします。ぜひ、近くにお越しの際はお立ち寄りください。

（輝き溢れる教育推進委員会委員長 石森良）

みんな「小林和作画伯」になろう展 募集要項

募集テーマ
「私のふるさと・おのみち」と称して尾道の風景、イベント、好きな場所、好きな人物など自由な発想で描いてください。

募集締切 平成26年9月8日（月）

対象・部門 尾道市内の小学生（1～3年生部門）・4～6年生部門
※ただし、未発表を必ず本人の描いた作品に限ります。

応募方法 ・スケッチ、イラスト、墨の絵など表現方法は自由、ただし、平面作品に限ります
・サイズは、絵画用紙の4分の1程度（幅40cm×高さ30cm）
・作品の裏面に、学校名・年年、氏名、電話番号・住所を明記の上、各小学校へ提出してください。
・必ず作品は作品提出終了後、各小学校へ返却されます。

賞品等 ・小林和作賞
立（賞状、楯額、小林和作先生肖像）
・佳作賞（賞状、楯額、任天堂3DS・紙袋・初心教室）
・人選
15名（賞状、楯額、民芸カーテン1000円引）
※選出作品は平成26年11月4日（火）～18日（水）の期間、市役所ロビーに展示します。

表彰式 ・発表
尾道青年会議所ホームページに掲載。各小学校に入賞者の追加を掲載で発表します。

・表彰式
平成26年11月2日（日）
※西國寺にて10:30より表彰式を行います。表彰式の際は、入選作品を西國寺に展示します。

問い合わせ 尾道青年会議所ホームページに掲載。各小学校に入賞者の追加を掲載で発表します。

（記事…中司昌克）

みんな「小林和作画伯」になろう展

尾道市名誉市民 小林和作 誕生日40年企画
作品募集 平成26年9月8日（月）募集締切

小林和作ってどんな人？

1888年、山口吉敷郡萩原町（現在の山口市）で生まれた。絵本を読むのが好きで絵を描き始めたが、絵本を読むよりも自分で絵を描くのに喜んでいた。京都市立美術学校で美術を学んだ。京都で日本画の勉強をした後、横濱で洋画を学び、その後、上海で洋画を学んだ。その後、上海で洋画を学ぶために渡り、日本へ戻った。明治22年（1889年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治23年（1890年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治24年（1891年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治25年（1892年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治26年（1893年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治27年（1894年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治28年（1895年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治29年（1896年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治30年（1897年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治31年（1898年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治32年（1899年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治33年（1900年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治34年（1901年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治35年（1902年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治36年（1903年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治37年（1904年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治38年（1905年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治39年（1906年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治40年（1907年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治41年（1908年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治42年（1909年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治43年（1910年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治44年（1911年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治45年（1912年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治46年（1913年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治47年（1914年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治48年（1915年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治49年（1916年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治50年（1917年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治51年（1918年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治52年（1919年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治53年（1920年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治54年（1921年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治55年（1922年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治56年（1923年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治57年（1924年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治58年（1925年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治59年（1926年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治60年（1927年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治61年（1928年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治62年（1929年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治63年（1930年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治64年（1931年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治65年（1932年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治66年（1933年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治67年（1934年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治68年（1935年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治69年（1936年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治70年（1937年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治71年（1938年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治72年（1939年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治73年（1940年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治74年（1941年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治75年（1942年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治76年（1943年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治77年（1944年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治78年（1945年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治79年（1946年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治80年（1947年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治81年（1948年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治82年（1949年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治83年（1950年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治84年（1951年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治85年（1952年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治86年（1953年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治87年（1954年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治88年（1955年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治89年（1956年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治90年（1957年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治91年（1958年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治92年（1959年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治93年（1960年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治94年（1961年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治95年（1962年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治96年（1963年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治97年（1964年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治98年（1965年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治99年（1966年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治100年（1967年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治101年（1968年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治102年（1969年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治103年（1970年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治104年（1971年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治105年（1972年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治106年（1973年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治107年（1974年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治108年（1975年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治109年（1976年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治110年（1977年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治111年（1978年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治112年（1979年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治113年（1980年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治114年（1981年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治115年（1982年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治116年（1983年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治117年（1984年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治118年（1985年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治119年（1986年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治120年（1987年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治121年（1988年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治122年（1989年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治123年（1990年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治124年（1991年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治125年（1992年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治126年（1993年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治127年（1994年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治128年（1995年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治129年（1996年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治130年（1997年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治131年（1998年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治132年（1999年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治133年（2000年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治134年（2001年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治135年（2002年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治136年（2003年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治137年（2004年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治138年（2005年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治139年（2006年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治140年（2007年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治141年（2008年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治142年（2009年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治143年（2010年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治144年（2011年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治145年（2012年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治146年（2013年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治147年（2014年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治148年（2015年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治149年（2016年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治150年（2017年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治151年（2018年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治152年（2019年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治153年（2020年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治154年（2021年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治155年（2022年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治156年（2023年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治157年（2024年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治158年（2025年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治159年（2026年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治160年（2027年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治161年（2028年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治162年（2029年）に横濱で洋画を学んだ。その後、日本へ戻った。明治163年（203

尾道JC家族会



6月15日(日)、晴天にも恵まれて暑い日射しの中、尾道青年会議所家族会が御調町で行われました。大人も子どもも泥んこになりながらの田植えでした。大多数のメンバー、子どもたちは田植え初体験、田んぼに足をとられながらも楽しく苗を植えました。

途中ドロリンピックの開催もあり、サッカーのワールドカップにも負けない盛り上りと歓声が響き渡りました。子どもも、大人も、日常を離れ田んぼを力一杯走りました。汚れても怒られる心配もないで、子どもたちも本気です。水路も付近にあり水遊び、田植え機の試乗もありました。

そして体を動かした後は、農家さん自慢のお米の食べ比べ、美味しいお米の作り方を教えてもらいました。食事はみんなで青空の下で食べるバーべキューでした。「食」のありがたみを感じる一日となり、心から「いただきます」「ごちそうさま」とみんなで言えるプログラムでした。

最後になりますが、設営して下さいました福田委員長率いるJAYCEE交流推進委員会の皆様、ご協力いただいた「御調 たんぽでがんばー」の皆様、本当にありがとうございました。

(記事: 濱野 光展)



(記事: 三谷 彰紀)

三体廻しの歴史

山岡 稔季が語る

尾道の祇園祭は江戸時代に盛んになり、鉾巡行や三体神輿の渡御が行われた。そして昭和30年代まで、神輿の御旅所を西御所(祇園橋の東)に設け、生花展などの各種出し物、屋台が軒を連れね、その賑わいは一週間も続いていた。

そんな三体神輿が時代の変遷で昭和40年(1965年)には担ぎ手不足のため中断された。以降、勇壮な神輿は台車に載せられ、お年寄りにより曳かれることとなる。

厳島神社に合祀されている八坂神社は、もともと常称寺(時宗)の境内にあったという。その後、鞆の祇園社(沼名前神社)の神靈を勧請し祭礼を始めたという。明治維新になると神仏分離令で、八坂神社は現在の厳島神社に移された。

13年の中断の後、昭和53年(1978年)(社)尾道青年会議所のかけ声に、一宮(いっきゅう)神社青年部、久保コミュニティ青年部と尾道市職員有志が呼応し、祇園祭の三体神輿は復活した。

現在の三体廻しは往年の荒々しさは無くなつたが、それでも重量のある神輿を担いで、轍に向かって突進する勇壮さには多くの観客が拍手を送る。祇園祭りの三体神輿は、毎年7月の第3土曜日の夜、「水祭り」とともに尾道の夜を熱くする。



昭和53年、尾道JCの発案により見事に復活を遂げた「祇園祭 三体廻し」。それから34年、現在では三体廻しは久保八幡神社総代会へ、そして今年、会場警備の方も三体みこし保存会へ完全に引き継ぎ、祇園祭三体廻しは次のステップへと進んでいきます。

そこで今回、祇園祭復活の歴史を調べてみました! このことは2011年事業、『くるり・おのみち』でも詳しく取り上げられています。こちらのほうもぜひ!!



(記事: 広島プロツク協議会 地域活性委員会 委員 辻健志)



(真のしあわせを知る経営者同好会
代表: 加度 亮平)



この度、新たな同好会を設立いたしました。その名を「真のしあわせを知る経営者同好会」。昨年真のしあわせを知る経営者育成事業を通して、数多くの優良企業を訪問しました。その事は大変役立ち、もつもつと勉強したいと思うようになりました。私たち経営者が中心となつて頑張つていく事は、明るい豊かなまちづくりに必要です。せっかく地元企業の経営者が集まるこの会で、こういった同好会を設立することは本当にいい事だと自負しております。

まずは7月8、9日で仙台にあるアップルファーム株式会社を訪問し、勉強して来ようと思りますので、よろしくお願いします。

まだまだ同好会メンバーが少ない状態です。随時メンバー募集しておりますので、よろしくお願いします。

